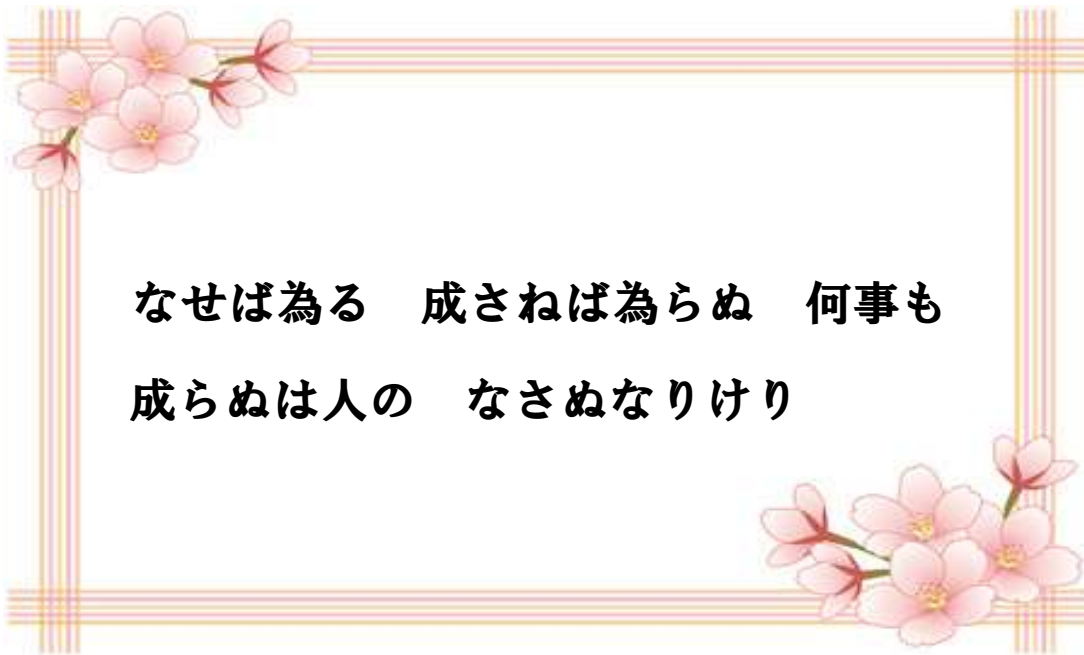




いなほ

茨城県立伊奈特別支援学校同窓会会報
第27号 平成29年6月25日発行





なせば為る 成さねば為らぬ 何事も
成らぬは人の なさぬなりけり

平成 29 年度も早 1 か月が過ぎようとしています。今年度は、児童生徒総勢 254 名でスタートをしました。

4 月 6 日(木)始業式では、本校の校訓「あかるく・なかよく・げんきよく」を礎にして、「笑顔で気持ちのよいあいさつ!」「掃除の習慣化!」「友達へのおもいやり!」の習慣をつけましようと話しました。

また、4 月 7 日(金)新入式では、本校を巣立った皆様の在校生時代を思い浮かべながら、「豊かな表現ができる子になろう。」「工夫しながら、挑戦する子になろう。」ということを私の願いとして話しました。在校生の児童生徒の皆さんも豊かな表現ができて、挑戦する気持ちをもって欲しいと思います。

上記の詩は、米沢藩第九代藩主であった上杉鷹山(治憲)公の作品です。この意味は、やろうと思えば何でもできます。できないのはやろうと思わないからです。やろうとすることは他人のためではなく、自分のためになるのです。という意味が含まれています。毎年卒業生を送り出す時に、卒業文集にはこの詩を必ず書かせてもらっています。

同窓会は、社会人になっている先輩方は現役の学生たちからすると、一番身近で、しかも具体的に目標とする人でもあります。また、教職員から考えてみると、本校を巣立ったみなさんが立派に成長した姿や近況を知る良い機会となっています。

同窓会員の皆さま、これからも本校を温かく見ていただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。最後に、本会の開催にあたりご尽力をいただきました方々に心より感謝申し上げます。

茨城県立伊奈特別支援学校長
古 木 忠



時が過ぎて、再び



副校長 関根 眞由美

最初に伊奈特別支援学校に赴任したのは、今から25年前の平成4年のことでした。小学部3学年の担任となり、時には、予期せぬ行動に戸惑い、悩んだこともありました。が、一步一步成長している子どもたちの頑張りや明るさ、そして屈託のない笑顔に励まされていたことを思い出します。また、保護者の皆様の養育に対する姿勢に接することができたことは、教員生活並びに子を持つ親としての大きな財産となっています。

他の学校に異動しても、同窓会の便りが届きます。懐かしさと伊奈特の校風に触れたくて、機会があれば同窓会総会に参加させていただきました。体育館に入るとすぐ駆けつけてくれる卒業生、近況や悩み事を話してくれる卒業生もいます。年々、参加者も増え体育館一杯、思い出話にあふれ、あっという間に過去にタイムスリップしてしまいます。

平成25年から2年間、そして今年度と三度目の伊奈特は、私を温かく迎えてくれました。

そしてまた、伊奈特の一員として同窓会に参加することができ、嬉しさで一杯です。

今後も卒業生、保護者の皆様、教職員が思い出や近況を語り、絆を深める場として、同窓会が続いていくことを願っています。



本校に赴任して



教頭 奥岡 智博

新緑の葉が茂り、うっすらと汗ばむ季節となりました。

この4月に水戸特別支援学校から赴任してまいりました。どうぞよろしくお願ひいたします。赴任して早くも1ヶ月が過ぎました。児童生徒の皆さんの元気なあいさつ、積極的なかわり、ステキな笑顔に感心するとともに、毎日、私自身がパワーをもらっています。

伊奈特別支援学校は、約30年前、私が大学を卒業して初めて勤務した学校です。先日、児童生徒の皆さんの元気な校歌を聴いて、感慨深いものがありました。これまでに多くの卒業生が巣立ち、児童生徒、保護者の方々、地域の方々、そして教職員が力を合わせて作り上げてきたステキな学校だと思います。

同窓会は、この学校で学んできた卒業生が再会し、笑顔を交わし合い、お互いが元気になれる場です。また教職員にとっても卒業生の立派な姿や近況を知る大切な機会となります。どうぞ楽しい一時を過ごしていただければと思います。そして、これからも本校への温かいご支援、ご協力をいただければ幸いです。

最後に、本日の同窓会の開催にあたりましてご尽力いただきました方々に、教職員一同、心より感謝申し上げます。